

2018年5月27日(日) 近畿旧友会ハイキングクラブ「<sup>さんぼかい</sup>燦歩会」例会 (第470回)

「<sup>わづか</sup>茶源郷」和東 緑波の茶畑と新茶の薫り (京都)



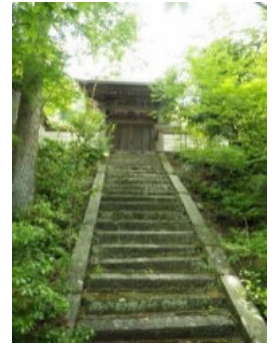
丘一面を覆う緑の波は、まるでコーデュロイのパッチワークのようです。京都府和東町の茶畑、今が収穫の季節です。生産量は近年の統計で年間1, 100トン。京都府全生産量の40%を占める大産地です。朝晩の気温差が激しく、また、急峻な山の間を和東川が流れて、朝霧が発生しやすいなど、気象・地形が茶の生産に向いているのだそうです。「和東のお茶は霧の香りがする」とか…。所がこれまで「宇治茶」の名で出荷されて来た為、「和東」の知名度は高くありませんでした。桃源郷に倣った「茶源郷」はいわば和東町のアイデンティティーの主張なのでしょう。

\* \* \*

JR関西線加茂駅からバスで和東町に向かいます。(この辺り京都府ですがバスは奈良交通。因みに近隣の浄瑠璃寺、岩船寺などのお寺もガイドブックではしばしば、「奈良の寺」に入っていますね。)この時期ハイカーが多い為、乗り切れない場合は臨時便を出してくれるという事でしたが、それほどの混雑にはならず、20分程で和東町の中心部に着きました。

九州が既に梅雨入りし、いつ雨が降ってもおかしくない季節ですが、幸いにも快晴。和東町のこの日の最高気温は結局28度8分、湿度は45%、風も3メートルあって、まことに快適な燦歩になりました。参加は男性11名、女性5名。心配なのは熱中症で、幹事さんからもしばしば注意があり、こまめな水分補給と木陰での休息を繰り返しながら歩きました。

まず古刹正法寺（しょうほうじ）にお参りします。  
そもそもの創建は奈良時代にさかのぼりますが、江戸時代初期  
正保年間（1644～48年）に後水尾天皇・東福門院の支援を受けて、  
高台から現在地に移り、今日のたたずまいに整えられます。  
京都府文化財にも指定された勅使門などが、もみじの新緑に包まれて、  
閑寂そのものの境内でした。



正法寺のすぐ外に大きな吹き流しが立っていました。  
お寺の話では、来年が中興の祖の350年遠忌でそれを告げる為の  
ものという事でした。  
その吹き流しの先、茶畑の頂きにこんもりと茂って見えるのは、  
聖武天皇の皇子 安積親王（あさかしんのう）のお墓です。  
元々正法寺の前身は、安積親王の菩提を弔うために、大仏造営に携わる  
行基菩薩が創建したのだそうです。



皇子は、744（天平16）年閏正月11日、父聖武天皇が難波の宮に  
行幸するのに付き従って、今日の東大阪のあたりまで行きますが、  
脚気の病を発し、引き返します。  
所が、都 恭仁京（くにきょう）に戻って2日後の13日に亡くなって  
しまいます。17歳の若さでした。  
吹き流しは、まさに薄幸の皇子に弔意を表しているようにも見えました。

和東川を渡って、安積親王のお墓に詣でます。直径8m程の円墳で、  
周りはずっかり茶畑になっています。当時の正史「続日本紀」は  
皇子の死を淡々と記していますが、歌人大伴家持が皇子の内舎人  
（うどねり）として側に仕えていて、万葉集にその悲しみを切々と  
詠っています。



「<sup>は</sup>愛しきかも皇子の<sup>みこと</sup>命の<sup>がよい</sup>あり<sup>いくち</sup>通い見しし活道の路は荒れにけり」（万葉集 巻3の477）

（お慕わしい事にも、皇子さまが通い続けてご覧になった活道山（いくちやま）の路も荒れ果ててしまった。）  
家持は当時20代半ば、「皇子はゆくゆく国を治める人」と信じていました。  
それがまさかの突然の死。「舎人たちは白の喪服で、大地に身を投げ出し衣を濡らして」  
皇子の死を嘆き悲しんだというのです。

皇子の将来への大きな期待と突然の悲しみが、6首の歌に籠められています。  
和東の地は、和豆香柚山（わづかそまやま）と呼ばれ、皇室に木材や薪炭を  
供出していた事、皇子は恭仁京から程近いこの地（いくちやま）に、  
しばしば狩りに来ていた事などから、ここが墓の地として選ばれたようです。



昼食はすぐ近くの活道ヶ丘（いくちがおか）公園の木陰でとりました。  
これもなかなかの難読地名ですね。碑に家持の歌が刻まれていました。

（右写真 下部）

午後は茶畑の絶景散策です。冒頭にご覧いただいた「石寺の茶畑」など10カ所程の「ビューポイント」が選ばれていて、それぞれ趣の異なる表情を楽しむことが出来ました。



黒いカバーで覆われているのは、直射日光を避けて、高級な「冠茶（かぶせちゃ）」を作る畑です。

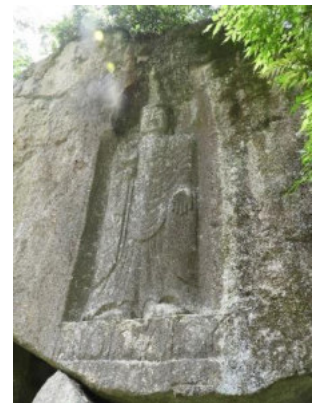


茶色に見える所は、枯れた訳ではなく、将来に備えて樹を休ませているのだそうです。



心休まる景色ですね。ウグイスとホトトギスが交互に鳴き交わしていました。

京都と奈良の境のこの辺りは石仏の多い事で知られていますが、ルートの中で、立派な磨崖仏を見る事が出来ました。和東川は、深い谷をうがち、巨石の間を激しく流れています。「長井の弥勒仏」はその流れを見下ろして、穏やかな表情です。高さ7mほどの大きな御影石から彫り出された弥勒仏は、像の右側の銘文によれば、1300（正安2）年4月に實専という僧たちが、仏の国への往生を祈願して刻んだものだそうです。



復路の奈良交通バスは1時間に1本。ルートを微調整して予定より早い便に乗る事ができ、14時45分に加茂駅で解散しました。幸い熱中症に罹る方もありませんでした。

相変わらずの補足・蛇足で失礼します。

## 1 安積親王の死の謎

安積親王は聖武天皇の皇子です。皇太子になってもおかしくない立場の人ですが、母親の家系からそうはならず、光明皇后を母とする阿倍内親王（あべないしんのう）が皇太子になります。史上ただ一人の女性の皇太子で、後に孝謙天皇、そして退位後また返り咲いて称徳天皇になる人です。皇子は期待されながらも、その辺りから運命は暗転し始めます。死については、病死ではなく毒殺という説もささやかれています。陰の人物は藤原仲麻呂。おばの光明皇后の血筋を天皇にしようと辣腕を振るい、専横を極めますが、後に乱を起こして滅亡します。

それらの政治情勢と関係があるのか無いのか、大伴家持は親王の死の2年後、越中の国司に任じられ、都に戻ったのはその5年後。その後も地方と都の転勤を繰り返し、その年月の中で万葉集の編纂を手掛けます。亡くなったのは皇子の死の40年ほど後785（延暦4）年、都は既に京都の長岡京に移っていました。家持の生年は717（?）とされていますから、程なく70という年齢だったのでしょうか。

## 2 茶源郷

和東町がいか「茶源郷」事業に熱心か、一部を写真でご覧ください。



## 3 防霜ファンのこと

茶畑を歩いていて目につくのは、ポールの上に付けられた扇風機です。名前は「防霜ファン」。霜はお茶の新芽の大敵、伸びかけていた所を一気に傷めてしまいます。和東では1991（平成3）年に大規模な霜害があり、それから普及が進んだそうです。因みに、茶畑の気温が5度位になるとファンが回って、上層の暖かい空気を茶樹に吹き付け、霜の付くのを防いでくれるのです。



#### 4 茶畑の畝

茶摘みをしていた方が休憩中で、写真を撮らせて頂きました。  
この茶積み機の両端を2人で持って、畝の上を滑るように動かして  
バリカンの原理で、茶葉を摘みます。  
摘まれた葉は風圧で、機械に付けた袋に集められます。  
この作業を円滑に進めるために、茶畑の美しい畝が形作られているのです。



所で、畝には写真の様にヨコのものとタテのものがあります。  
ヨコが多く、タテは少数のように見えます。  
何故か？ 答えは……。

ヨコならば水平移動で済みますが、タテだと傾斜地の上り下りが  
大変だからだそうです。では何故タテの畝もあるのか？

畝の両側の日当たりが均等で葉の生育が良いからだそうです。どちらにするかが経営センスかも。  
写真のタテの畝も、これ位の緩い傾斜だと、無理が無いのでしょうか。



もともと、ちょっと触らせて頂いた茶積み機は相当な重さで、  
これを支えながら茶畑を往復・上下するのは、まことに重労働に感じられました。  
そこで最近では、畝の上をまたいで移動しながら茶葉を摘む機械も出て来ています。  
名付けて「乗用型茶葉摘採機」。こんな感じのようです。  
折角ですから、浮世絵に描かれた茶摘み風景と合わせて、今昔の感をお楽しみください。



(左 寺田製作所ホームページより)  
(右 宇治歴史資料館図録より)

#### 5 お茶の葉の天ぷら

途中の「和東茶カフェ」で、色々なお土産の中に、摘みたてのお茶の葉がありました。  
天ぷらにするとおいしいという事で、買って帰り試してみました。



さわやかな風合い、云うまでもなく茶の香りと  
一寸甘みも感じられ、美味しく頂きました。

\* \* \*

## ご 案 内

旧友会員の方、職員の方、入会大歓迎です。

入念な下見を行い、中途離脱も可能なルートを設定して、**毎月第4日曜日**に歩いています。  
メンバーはおよそ50名、その日の都合と体調に合わせて自由参加です。

(事前に予約が必要な場合もあります)

- 今後の予定
- 6月 大正街歩き、渡船に乗って沖縄の風を感じる (大阪)
  - 7月 光秀ゆかりの福知山城と御霊神社を訪ね、由良川で治水の歴史を学ぶ  
(青春18切符を利用 京都)
  - 8月 暑さを避けて 休会
  - 9月 六甲の自然を取り込んだ広大な神戸市立森林植物園を楽しむ (兵庫)
  - 10月 京都トレイル第2回 伏見稻荷から蹴上へ (京都)
  - 11月25・6日 若狭・三方五湖と鯖街道を歩く (1泊2日のツアー)
  - 12月16日 納会 (大阪)
  - 1月 エキゾチック!世界宗教寺院めぐり (兵庫)
  - 2月 日野ひな祭り紀行と町並み散策 (滋賀)
  - 3月 華岡青洲の里を訪ねる (和歌山)

参加ご希望の方は、山村恵一さんにご連絡下さい。(電話 0743-20-4159)

ご一緒に気軽に楽しく歩きましょう。

生島(おじま)幸弥 記